

2 子馬の物語

次の日もまなみちゃんは学校を休みました。

さと子先生は、校長、教頭、学年主任に、まなみちゃんの現在の様子を報告し、助言を受けました。

「一人で悩まないように」「保護者とも話し合ってみては」「本人が負担を感じる話題は今は控えた方がいいね」という助言を得て、さと子先生は励まされた気持ちになりました。

放課後、さと子先生は再びまなみちゃんの家を訪れました。

担任：まなみちゃん、また顔見にきちゃった。

まなみ：うん……。

担任：何してたの。

まなみ：……お絵かき。

担任：見せてもらってもいいかな。

まなみ：……………。

担任：いやならいいからね。

まなみ：ううん、いいよ。

草原を駆けるたくさんの馬が、色鉛筆で描かれています。広々とした、すてきな絵です。

ふと、さと子先生は、一頭だけぼつんと離れている馬に目が止まりました。他の馬に比べ、体も小さくタッチも弱々しい感じがします。

担任：この馬、元気がないね。

まなみ：先生、わかる？

担任：うん。

まなみ：先生、この子「むなしいな」って思っているんだよ。

担任：……………。

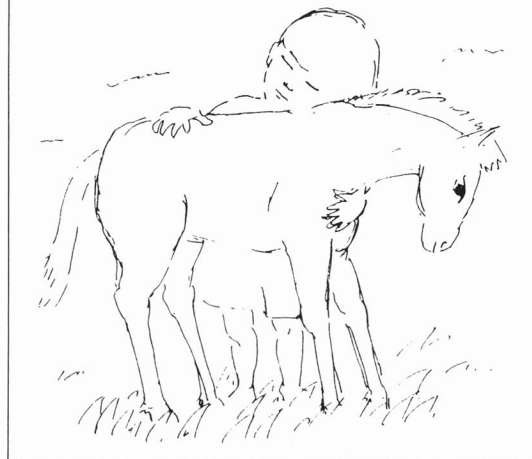
さと子先生は心臓がどきんとしました。

……今は、耳を傾けて話を聴こう。

まなみ：この子、今びょうきで、みんなとあそべないんだ。だから、びょうきが早くなおりますようにって、毎日おいのりしているの。でも、きょうはまだなおらないの。

担任：……早く治るといいね。

まなみ：うん……。



帰り道、さと子先生は子馬の物語を思い返していました。「むなしいな」というまなみちゃんの声が、耳に残っていました。

3 子馬の物語のつづき

まなみちゃんの子馬の物語はつづきました。

まなみ：先生、子馬に友だちができたんだよ。

担任：あら、よかったわね。

まなみ：うん。早くびょうきがなおりますようにって、いっしょにおいのりしてくれるんだよ。

担任：そう、子馬もきっと嬉しいね。